北海道国際理解教育研究協議会
平成２２年度　在外教育施設派遣教員帰国報告書

ジョホール日本人学校（マレーシア）および現地の教育事情

松前町立小島小学校　　校　長　黒　田　仁　志

１マレーシアとはどんな国

「マレーシア（MALAYSIA）」とは、マレーの島々という造語で、マレー半島を領有していたマラヤ連邦が、ボルネオ島のサバ・サラワク両州を合併した際に名付けられた新しい国名です。

国土は総面積３３万平方キロメートルで、日本の約９０％です。そして、マレーシアは東マレーシアと西マレーシアの２つに分けられています。西マレーシアはマレー半島で、東マレーシアはボルネオ島北西部です。

日本との時差は１時間遅れです。

マレーシア最大の都市はクアラ･ルンプール（マレー語で「濁った河口」）という意味で、親しみを込めて“KL”と呼ぶことが多いです。ちなみに、ジョホール・バルはJBと呼ばれています。

西マレーシアは１１州とクアラ・ルンプール連邦特別自治区によって構成され、東マレーシアは２州とラブアン連邦特別区によって構成されています。

マレーシアの特徴的なことは、民族・言語について多民族国家であり、うまく融合した形で国家を形成しております。総人口２６１２万人のうち、マレー国籍を持つ人の数は約２１００万人です。マレーシアの国語・公用語はマレー語ですが、日常会話では英語が使われる機会が多いです。

国教はイスラム教ですが、信教の自由は認められています。

東マレーシアには、数多くの先住民族がおり、現在でも独自の言語を持っています。宗教はキリスト教が多いようです。

ジョホール・バルは、北緯約１度に位置し、熱帯性気候で、高温多湿です。年間平均気温は日中３２度、夜間２２度（クアラ・ルンプール）で、朝晩は涼しく感じるときもあります。日本のような四季はありません。しかし、１年を通して「雨季（11月～3月）」と「乾季（6月～9月）」があります。乾季でも時折、スコールが雷を伴って訪

れます。

通貨はRinggit（リンギ‥‥RMと表記）、補助通貨はSen（セン）です。（RM1＝100Sen）１リンギは約27円です。（2010年11月現在）紙幣は4種類で、硬貨は4種類です。両替は銀行や両替商でできますが、一般的には両替商のほうが交換レートがよいようです。リンギの海外取引が禁止されたため､外国人のリンギ持ち出しは一人1000リンギまでとなっています。

治安については、まずは、「自分の身は自分で守る」が大原則であります。現在、経済の変動が激しい時期にあります。そのため、治安状態はアジアの中では比較的よい方だと言われていますが、盗難事件は珍しいことではありません。コンドミニアムに住んでいても、決して油断は許されません。

政治形態と政治情勢について説明します。立憲君主制で、各州のスルタン（国王）の中から、5年ごとに国王が選出されます。(現在はトレンガヌ州のスルタン国王です。)国会は上院と下院に分かれており、上院定数70（44は国王の任命、26は各州議会の選出)、下院220名程度です。建国54周年を迎え、マレーシアはますます活気づいております。日本人学校との連携・協力といった、面で在外公館の役割は非常に大きなウエイトを占めていた。

経済情勢は、1985年の景気停滞後、外貨導入政策を打ち出し、持続的な高度成長を続けているところです。

1996年から第7次経済中期計画により「ワワサン2020」が発表されます。2020年には先進国入りするという目標のこと。他民族すべての協調による経済発展をめざすマレーシアは、日本に学べという「ルックイースト政策」を軸に経済発展を続けています。1997年ころの東南アジアの通貨･経済危機からようやく立ち直りつつあります。日系企業は1000社を超えており、在留日本人はおよそ10000人です。その多くは、クアラ・ルンプール、ペナン、ジョホールに住んでいます。当地ジョホール・バルには、製造業が多く進出しており、在留邦人は約800名です。

マレーシアの歴史は、東南アジアの他国同様、近代は植民地としての年月が長く、1957年に英国から独立しました。ポルトガル、オランダ、イギリスの植民地に続き、第２次世界大戦期には日本軍のシンガポール陥落作戦のための踏み台となり、一部対日感情がよくない地域や世代も残っています。したがって、私たち日本人はこの事実に決して目をそむけることなく、マレーシアの方々と共存共栄の精神で努力していかなければならないと思っておりました。。

以下、簡単ですけれど歴史的な流れを記載します。

１４０３年	マラッカ王国が成立
１５１１年	ポルトガルがマラッカを占領
１７８６年	英国東インド会社がペナン島を植民地
１８１９年	英国東インド会社総督ラッフル候がシンガポールを領有
１８９６年	マレー連合州の発足
１９４１年	太平洋戦争勃発。日本軍マレー半島北部に上陸
１９４２年	日本軍により、シンガポール陥落、昭南島と改名。
１９４５年	日本軍敗戦。再び英国領となる。
１９５７年	マラヤ連邦として英国より完全独立。
１９６３年	マレーシア連邦として独立
１９６５年	シンガポール島がマレーシア連邦から完全独立。

マレーシアの教育制度は、古くはイスラム教教

育に端を発しますが、いわゆる近代教育が開始されたのは最近のことと言えます。

日本と同様に小学校・中学校は義務教育です。上級進学には厳しい選抜試験があり、上級中等教育、大学予科試験の合格者だけが、大学や大学院へ進む資格が得られます。大学には民族構成比ごとの入学枠があり、いくら優秀でも、その比率を

超えた場合には入学できないケースもあります。そこで、中国系を中心として優秀かつ裕福な家庭の子女は日本を初め欧米・オーストラリア等が海外へ留学しているようです。

マレーシアでは各民族がそれぞれの学校を持っており、現地の言葉を理解できない児童・生徒に対する受け入れについては、適応指導などの欧米のようなシステムはないようです。

ジョホールにもインターナショナルスクールはありますが、日本人の子弟で通っているのはわずかです。

派遣教員の学齢児童生徒はすべて本校に入学しています。乳幼児は現地の保育園に預けています。マレーシアには日本人対象の高等学校はなく、高校生はシンガポールの「早稲田渋谷」やインター

ナショナルスクールに通っています。日本ではインターネット高校に入学し、自宅のパソコンを使って高校卒業の単位を修得しようとしている高校生もいます。

続いて、マレーシアでの生活習慣についてお話しいたします。他民族国家であるゆえにいろいろな生活習慣が混ざり合っています。憲法により、イスラム教が国教として定められていますが、信教の自由は認められています。マレー系にはイスラム教徒、中国系には仏教徒、インド系にはヒンズー教徒が多く、それぞれで習慣も異なります。例えば、イスラム教徒は豚を不浄として食べず、ヒンズー教徒は牛を神聖な動物として食べません。イスラム教徒の中には、飲酒も喫煙もせず、左手を不浄として、食事や人に物を渡すときも必ず右手を用いる人が少なくありません。また、イスラム教徒の女性は肌を見せません。したがって、相手の宗教に応じて配慮が必要です。

言葉については、マレー語が中心ですが、英語もかなり通じますので、簡単な英会話ができると行動範囲が広がります。

銀行については、ジョホール・バルの場合、残念ながら邦銀はありません。HSBC 銀行を利用していました。預金の引き出しに関しては、暗証番

号で、２４時間利用可能です。大変便利です。ここでも、日本と同じようにインターネットバンキングにより、便利に利用することができました。

電化製品については多くはコンドミニアムに備え付けてあります。その他必要な物はコンドのオーナーと交渉する必要があります。

ガス・水道はほんとに低下価格です。ガスボンベタイプのプロパンガスで、１本７００円程度で、雑貨屋さんが運んで配達してくれます。

水道の料金はびっくりするくらい低価格です。他の光熱費にくらべても格安です。料理、皿等の洗浄、洗濯で直接使用するのは問題なしです。歯磨き、洗顔も水道水を使用しています。飲料水はミネラルウオーターのタンクを設置している人が多いです。

電話は、国内料金の基本料金はお安くなっています。また、国際電話は NEXTEL というプリペイドカードを現地で購入すればかなり、安くかけられます。どの申し込みについても、英語で通じるので大変便利です。

インターネットについては、派遣後、電話を開設する際にはこちらのメールアドレスを取得して、開設します。インターネットは、家庭ではアナログ回線での接続と ADSL などの高速接続のサービスも広がっています。（しかし、ADSL がつながらないところもあります。）ネット事情は安定していると言えませんが、私の場合は恵まれていたようです。

校内は全ての職員のパソコンが LAN で接続されていて、メール・インターネットの利用が可能

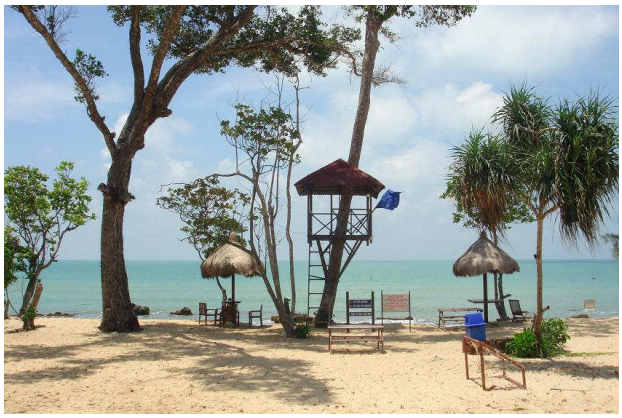
です。

テレビに関しては、ASTRO（マレーシアの衛星放送）を契約すれば、１ヶ月３５００円ほどで、２４チャンネルほど受信可能です。

リアルタイムで日本のNHKニュース、等が見られます。新聞等もリアルタイムで、当日印刷（衛生版）でも読めます。月極で購読可能です。学校には朝日新聞が配達されています。

日本との繋がりが強い国マレーシアはまさにフルーツ天国です。おいしいフルーツ満載です。基本的には、各国の料理がが気軽に食べられます。（日本料理、マレー料理、中華料理、インド料理、西洋料理）比較的安くおいしいです。ケンタッキーフライドチキンやマクドナルド、スターバックス等世界的なファーストフードの店もあります。レストランは、曜日によって一斉に休業するようなことはなく、一般的に、朝１０時くらいから１０時くらいまで営業しています。（マレー料理は断食中クローズします。）日本食も、レストラン・割烹・居酒屋等が各地にあり、ここ、ジョホール・バルでも気軽に食べられます。屋台で食べるのも、アジアン料理が堪能できます。持ち帰りができます。

日本の食材は、日本のものにこだわらなければ、地元のスーパーで必要な物は変えます。パサを利用すると、新鮮な野菜、果物も手に入ります。パサとは市場のことです。ラーキンスタジアム近くのラーキンパサやテブラオパサは毎朝開かれ、多くの客で賑わっています。また、曜日によって街のどこかで開かれるパサもあります。写真は、毎週火曜日に開かれる、通称“ナイトパサ”の様子です。新鮮な野菜や果物、魚介類等を手に入れることができます。また、食材だけでなく、様々な日用品も売られていて、見て歩くだけでも楽しめます。値段は示されていますが、値切って買うのが、普通です。お店の人との値段の交渉を楽しみにパサに行く人も多いとか、また、気に入ったお店が見つかったら、何度も足繁く通うこと、そうやってなじみの店をつくること、簡単に値切ることができるし、思わぬサービスをしてもらうことも行って楽しい、買って楽しい、見て楽しい、それがじょほーる。バルのパサです。最高です。現地理解がまさに、ここで、できるという感じです。



２国境の町、ジョホール・バル

ジョホール・バルは、マレー半島最南端にあり、人口約１３０万というマレーシア第二の都市です。

私たちが住んでいたジョホール・バルはその州都で、隣国シンガポールとは、わずか海の向こう約１５００ｍとまさに目と鼻の先です。

国境の橋、「コーズウエイ」はマレーシアとシンガポールを行き来する両国の人々でいつの大混雑です。

シンガポールとマレーシアの交流はこの橋で、毎日のように行われています。「もの」「人」との交流豊かなまちジョホール・バルは昼夜を訪わず

日々発展をし続けているまちです。

また、ジョホール・バルといえば、日本にとっ

て「サッカーの聖地」といわれている。１９９８年のワールドカップ・フランス大会出場を決めた「ジョホール・バルの歓喜」のラーキンスタジアムがある。

特筆すべきは教育熱の高さである。市街地でも、郊外でも学校が林立している。夕方には塾通いの子どもたちが往来を急がし足で、動く姿が目立つっている。マレーシアは日本の教育政策に学んで

いるところがあり、保護者の愛の中、優雅にすくすくと育っている。

現地校を訪問すると、マレー系、中華系、インド系の子ども達が、宗教や生活習慣の違いを乗り越え、互いに認め合う雰囲気を醸し出しています。互いの「違い」を「違い」としてしっかり認識し、相手の主義・信条を大切にしています。

「寛容性のある風土」の中で、日本人としての生き方・国際人としての生き方・国際人としての生き方を学ぶことができる良き環境であります。

３ 学校の概要

１ 学校の名称･所在地

(1) 名称

正式名称：在マレーシア日本国大使館付属ジョホール日本人学校

当国教育省登録名：SEKOLAH JEPUN (JOHOR)

〔登録証書　＃８３９〕

(2) 所在地

No.3, Jalan Persisiran Seri Alam, Bandar Seri Alam, 81750 Johor Bahru, Johor Darul Takzim, Malaysia

２ 学校の沿革

学校はジョホール・バルの中心地から北東約２５Km離れたスリアラム開発地域内にあり，静寂で学習に適した環境にあります。２０，２３８m^2の敷地内に校舎，体育館，プール，運動場等の施設・設備を有した小・中学部併設校です。１９９７年に設立し，１９９８年４月からスリアラム社から賃貸借契約している現在地に移動し開校１３年目を迎えた学校です。

３ 学校のステイタス

本校は，ジョホール日本人会設立の日本政府援助対象校であり，**マレーシア国連邦の教育法1961**に基づき，１９９７年３月教育省私学教育局からの認可と州教育局より日本人学校代表あての「登録証書＃８３９」を交付された「私立学校」であります。一方，「在マレーシア日本国大使館付属日本人学校」のステイタスを有し，文部省より１

９９７年１２月「在外教育施設日本人学校」の認可を受けています。また，日本大使館公使（学校代表）より学校経営管理を委嘱されたジョホール日本人会は，学校運営委員会に学校の運営・管理を再委嘱しています。

４ 本校の教育の目的

マレーシア国において，日本国文部科学省の定める学習指導要領に準拠して日本語による教育を広く行うことを本校の目的としています。日本における教育基本法の精神に沿って，児童生徒の知的・身体的・情操的な発達による人格形成を目指すとともに，世界の平和と国際理解・親善のため

の豊かな国際感覚を備えた日本人の育成を目指した教育を目的とするものであります。
（「学校規則」第３条，第４条）

５ 学校運営委員会

(1) 位置付け

在マレーシア日本国大使館公使の学校代表より日本人会を経て学校運営・管理を委嘱された組織

です。

(2) 目　的

学校の組織運営上の基本方針，諸規定類の制定及び改廃，教職員人事，予算・決算及び寄付金・校納金・基金等の財務会計，重要な財産の取得管理と処分，その他経営上重要な事項の審議決定を行います。

(3) 構　成

運営委員会は下記の１０名の委員により構成されています。

① 在マレーシア日本国大使館代表１名
② ジョホール日本人会代表７名（副会長，学校部，総務部，元会長，次期副会長等）
③ ジョホール日本人学校保護者代表１名（ＰＴＡ会長他）
④ ジョホール日本人学校代表（校長）１名

(5) 経営資金

① 日本政府補助金，企業及び個人寄付金，保

護者校納金等によって賄い，在外教育施設の経営は「受益者負担・自助努力」を原則としています。

② 校納金については，学校要覧を参照のこと。

６ ＰＴＡとバス運営委員会

(1) ＰＴＡは，保護者と教師が協力して，児童生徒の教育の振興と幸福な成長を期し，かつ会員相互の親睦と教養を高めることを目的として組織された外郭団体です。

(2) バス運営委員会は，児童生徒の安全かつ円滑な通学を図るバス運営を目的として組織された外郭団体です。

７ 児童生徒の安全対策

(1) 一般的な安全面では，海外生活上の心構えとして「自分の身は自分で守る自衛心」を育て，有事の際の大使館指導・助言等の注意事項を速やかに伝達するための連絡網を編成しています。

(2) 学校内での怪我や急病の場合は，養護教諭が応急処置を行い，症状によっては保護者に緊急連絡の上，医療機関に搬送します。

(3) 各家庭では，海外旅行傷害保険等を付保し，校外での安全を確保しています。

(4) 校内傷害事故等（登下校時のバス事故を含む）に対しては，学校傷害保険で対処します。病気は対象外でありますが，災害給付支払いの対象となるけがが原因で発生した破傷風は支払いの対象となります。

(5) 学校傷害保険

学校管理下の児童生徒の負傷と，後遺傷害及び死亡等に関する給付を対象とします。

傷害保険の有効期間は，本校在学中に限り，退学時点でその効力を失うものとします。

付保対象

① 事故死（事故が原因で，９０日以内に死亡の場合）・・・・ RM１１０，０００
② 事故当日から９０日以内に後遺症で死亡の場合は,程度により３０～１００％支払
③ 失明，手足欠損等の生涯不自由傷害・・・・・・・・・ RM１１０，０００
④ 入院費・通院費（１事故当たり）・・・ RM１，０００まで

(6) 保険金請求手続きは，担任を通じて養護教諭に関係書類を提出します。

(7) 不審者の侵入，火災，地震，バスジャック等の緊急災害に対する安全管理対策は，別途これを定めています。（安全管理マニュアル）

４　本校の特色ある教育活動

本校は、１９９６年創立のマレーシア国内で最も新しい日本人学校です。本年で１４年目を迎えました。

本校の教育理念「暑さの厳しい自然の中で、しなやかに成長している草木のように、個性豊かでたくましく、豊かな人間性と国際感覚を備え、世界に羽ばたく子どもの育成を図る。」を基として、毎年、特色ある活動を展開しています。

まず、

⑴ 子ども達が自主的に進める活動

運動会、ペスタクラパ（学習発表会）等の大きな学校行事から日本人会と連携した日本人墓地清掃のような小行事に至るまで、運営・進行に子ども達が大きくかかわっています。計画から、実践まで子ども達のアイディアや工夫が生かされ、やる気をもって、活動に取り組む姿が見られます。子ども達には、責任感や問題解決能力がたくましく育っています。

また、小中併設という利点を生かし、縦割り班による活動を活性化することで、よりよい人間関係を築いています。また、入学式、卒業式等の儀式的行事を始め､各種の行事は協同で行っています。勿論、生徒会・児童会、各委員会も協同で活動しますが、小学部教諭・中学部教諭はどちらにも行き来をしている場面もあります。

⑵ 現地校との交流学習

小学部、中学部は近隣の地元校との交流を毎年進めている。目指すは、「双方向の交流学習」で、両国の伝統遊びや文化を紹介する活動の中で、コ

ミュニケーション能力や他国文化理解ができる力を身に付けています。事前準備が大変であるが、相手校との打合せを数回、行うわけですが、教職員一人一人の交渉力が育つことも重要な学習であるといえます。

国際交流活動を児童生徒がジョホール・バルに暮らす人々や文化に触れ，身近な地域は言うまでもなくマレーシアという国や日本についての理解を深め，さまざまな価値観に触れて国際社会でたくましく生きる力をつけていくための効果的な学習の機会ととらえています。

本校の国際理解教育の中核をなすものは，現地校の児童生徒との国際交流です。国際交流は，小学部低学年では生活科，小学部３年から中学部は総合的な学習の時間に位置づけて行っています。活動は主として，学年単位あるいは学部単位で計画実施してきています。これまでは学年児童生徒の発達段階を考慮して，系統的には行われてきていなかったこともあり，これからは学年間の相互

の連携を図り，身につけさせたい力を明らかにして，（育てたい力体系表を活用して）交流活動の内容を検討していかなければならないと感じています。

(3)現地素材を生かした授業

教職員が各地に赴いて、現地素材を活用しています。マレーシアの国を理解するためには、なくてはならないことであります。

この現地素材についても、長期休業中に、全職員が研修のなかで、見つけてきた物である。研究の中で、それをデータベース化として共通な財産としています。そのことで、現地素材の教材図られ、マレーシアのよさへの気づきが、教職員自身

にもついて行きました。

(4)主体的な PTA 活動

本当に熱心な PTA の方々、学校と協力して子どものために何が必要か？を常に考えていました。子ども達に何ができるか、各行事に分担を決めて、ＰＴＡ全員で進めるといった取り組みをしていました。お話しの会、カレー曜日、年に３回のカレー曜日は何故か子ども達は大喜びです。

また、教育活動には、校外学習の引率、図書整理、ゲストティーチャーとして活躍もしていただいていました。

(5)　英会話授業の改善・充実

今までの英会話授業の内容や方法について、改めて検証し、今よりもよりよく、授業を進めていくことで、充実を図る取り組みをしました。

今までの学習内容は踏襲した形で、

ア　歌やゲーム，スキット（寸劇）などの音声による体験活動や，テキストを用いた体系的な学習を通して英語や英語学習に興味をもたせる。

イ　英語を話す人の表情や身振りを観察させたり，身近な外国の日常生活や文化に触れさせたりすることによって，外国の生活や文化に対する興味，関心を高めさせる。

ウ　コミュニケーションを図る機会や活動を設定し，自己表現や相互理解の喜びを味わわせることで，英語で積極的にコミュニケーションを図る態度を育てる。

エ　身近な話題について話される英語の大意を把握したり，簡単な自己表現をしたりしながら，英語によるコミュニケーションの基礎的な能力を育てる。以上の４点の基本方針に加え、総括した形で、世界の同年代の子ども達と英語で会話するため必要な知識を定着させ、初歩的な口頭コミュニケーション能力を身に付ける。を基本的な目標にしながら、より、実践的で、活用範囲の広い英会話授業をめざしました。

５　さいごに　ありがとう　ＪＯＨＯＲ

ジョホール日本人学校では、日本人学校の使命を果たすべき、昼夜を問わず、必死にがんばるスタッフに恵まれました。協調性を第１に、年次を超えて、適材適所で一人一人の良さを生かして、学校運営を推進することができました。父母やローカルスタッフの協力により、日本の文化とマレーシア文化の融合が図られました。感謝。